



おわりに

【図26】 渋沢元治の生家内、渋沢国際学園にあった「澁澤元治記念館」

名古屋大学は、戦中というむずかしい時代に発足しています。医学部と理工学部のみで、理系中心で、航空医学研究所の設置や軍事教練の導入にみまされたように、当時の国策に一見沿った面もたしかにうかがえます。しかし、一方では国策に左右されずに、純粹に大学における学問研究を追求していかうと姿勢も捨てられることなく維持されていたといえます。それは「以和為貴」「進吾往也」という渋沢が好んだ書にもみえるような気がします。また、単に研究のみを追求していたのではなく、鏡が池の滝ほか「緑の学園」や陸橋設置構想にみるように、ゆ



【図27】2002年 名古屋大学博物館第4回特別展ポスター

とりある学園環境を重視していました。また、渋沢は歴史にも関心が深く、名古屋の歴史風土にあった大学を構想していたとも思われます。これら名古屋大学の初期、渋沢総長を中心にした名古屋帝国大学時期の大学発想は、現在の大学にも必要不可欠な課題ではないかと思われます。

渋沢が亡くなった後、遺族の方がその遺志を受け継ぎ、一九八五（昭和六〇）年に、深谷市の生家敷地内に、外国人留学生の日本語教育をおこなう「渋沢国際学園」を開校しました。この学園の中に「澁澤元治記念館」が建設され、遺品ほか渋沢の関係資料が、ここに大切に展示・保管されていました。しかし残念なことに、その遺族の方も亡くなり、これらの資料の維持管理をこのまま継続しつつ

けることが難しくなりました。その後数多くの関係者のご懇意ご協力により、二〇〇一（平成一三）年一〇月に名古屋大学大学史資料室へこの資料が移管されました。この資料をもとに二〇〇二（平成一四）年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館第四回特別展「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は、この展示をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。

〈引用文献・参考文献等〉

- 『名古屋大学五十年史 通史一』（名古屋大学、一九九五年）
『名古屋大学五十年史 部局史一・二』（名古屋大学、一九八九年）
『写真集 名古屋大学の歴史 1871～1991』（名古屋大学、一九九一年）
渋沢元治『我等の學園』（一九四三年）
渋沢元治『五十年の回顧』（渋沢先生著書出版事業会、一九五三年）
渋沢元治『思い出の随想』（渋沢先生白寿記念会、一九七四年）
朝倉健太郎・安達公一「電子顕微鏡をつくった人びと」（医学出版センター、一九八九年）
勝沼精蔵・山元昌之『病院防空―戦跡と戦訓―』（一九四五年）

木方十根 「創設期の東山キャンパス計画 ― 営繕顧問・内田祥三の資料を中心に―」（『名古屋大学史 紀要

第六号』名古屋大学史資料室、一九九八年）

椎尾久子 「在りし日の思い出」（『八高五十年誌』八高創立五十年記念事業実行委員会、一九五八年）

永塚利一 『澁澤元治』（電気情報社、一九六九年）

本多静六・稲垣龍一 『名古屋帝国大学敷地内植樹調査報告』（一九三九年）

『中央製作所五十年史』（株式会社中央製作所、一九八六年）

『八高の先生がた』（八高八十年祭記念基金委員会、一九九二年）

略年表

| 年月 | 名古屋大学関係 | 渋沢元治関係 |
|------|---------------------|--|
| 一八七一 | 仮病院・仮医学学校設置 | 埼玉県大里郡八基村大字血洗島にて生誕 上京、私立成立学舎に入学 東京府立尋常中学校に編入学 第一高等学校第二部農科に入学 工科に転科 第一高等学校卒業 東京帝国大学工科大学電気工学科に入学 東京帝国大学工科大学電気工学科を卒業 入隊 |
| 一八七六 | | |
| 一八八九 | | |
| 一八九四 | | |
| 一八九六 | 愛知県立医学専門学校に昇格（愛知医専） | 古河鋳業足尾鋳山所に入所 伯父渋沢栄一に同行して欧米留学 |
| 一八九七 | | |
| 一九〇〇 | | |
| 一九〇一 | | |
| 一九〇二 | 第八高等学校創立（八高） | 帰国 結婚 通信省電気試験所に勤務 |
| 一九〇三 | | |
| 一九〇六 | | |
| 一九〇八 | | |
| 一九一〇 | 愛知医専、現鶴舞キャンパスへ移転 | 「同期電機の特性」で工学博士学位取得 東京帝国大学工学部講師（兼任） 東京帝国大学工学部教授（兼任） 通信省電気局技術課長 |
| 一九一四 | | |
| 一九一八 | | |
| 一九一九 | | |

| | | | |
|------|-----|--------------------------------------|---------------------------|
| 一九二〇 | 七 | 愛知医専、県立愛知医科大学に昇格 名古屋高等商業学校創立（名高商） | 東京帝国大学工学部教授（専任） 電気学会会長 |
| 一九二四 | 一一 | | 東京帝国大学工学部長 |
| 一九二九 | 四 | 愛知医科大学官立名古屋医科大学に移管 | アメリカ電気学会名誉会員 |
| 一九三一 | 五 | 名古屋帝国大学創立 | 東京帝国大学工学部停年退官 |
| 一九三七 | 三 | 理工学部設置 | 帝国学士院（現日本学士院）会員 |
| 一九三八 | 四 | 第一回創立記念式 | 名古屋帝国大学総長 |
| 一九三九 | 四 | 愛知県科学技術振興会発足 | |
| 一九四〇 | 五 | 学生寮設置、総長懇談会はじまる | |
| 一九四一 | 九 | 理工学部、理学部・工学部に分離 | |
| 一九四二 | 一 | 東山キャンパスオープン | |
| 一九四三 | 二 | 航空医学研究所附置 | |
| 一九四五 | 三、五 | 開学式挙行 | |
| 一九四六 | 一 | この頃、空襲が激しくなる | |
| 一九四七 | 一〇 | 岡崎高等師範学校創立（岡崎高師） 敗戦 | |
| | | 環境医学研究所附置 | |
| | | 名古屋大学（旧制）に改称 | 名古屋帝国大学総長を退任 |

| | | |
|--|--|---|
| <p>一九四八 一〇 一九四九 四 一九五〇 三 一九五一 四 一九五五 一 一九五六 一 一九七四 二 一九七五 二 一九九三 〇</p> | <p>文学部・法経学部設置 新制名古屋大学設置、八高・名高商・岡崎高師を包括、 教育学部設置 法経学部、法学部・経済学部に分離 農学部設置 情報文化学部設置</p> | <p>文化功労賞受賞 第一回澁澤賞表彰 白寿 逝去（享年百歳）</p> |
|--|--|---|

名大史ブックレット6

草創期の名古屋大学と初代総長渡沢元治

二〇〇三年三月三十一日 第一刷発行

著者略歴

神谷 智 (かみや さとし)

一九五七年 愛知県生まれ

一九九一年 名古屋大学大学院文学研究科

博士課程(後期課程)単位取得退学

現在 名古屋大学史資料室助手

専攻 記録史科学

著者 神谷 智

(協力・名古屋大学博物館)

編集 名古屋大学博物館

名古屋大学史資料室

発行 名古屋大学史資料室

〒464-8601 名古屋市中種区不老町

電話 〇五二(七八九)二〇四六

印刷所 株式会社 ク イ ッ ク ス

〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町一九一〇〇

電話 〇五二(八七二)九一九〇



表紙表：1943年5月開学式に配布された絵はがき。
当時の名古屋帝国大学の建設計画を反映
した完成予想図。

表紙裏：初代総長 洪沢元治